



BY KATHY LIEN

今日のFXマーケット 01.23.12
(2012年1月24日発行)

FX: リスク選好にも陰り？

年初来通貨と株式が極めて好調だ。S&P 500は5カ月来の高値に達し、ダウ平均株価に至っては8カ月来の水準まで上昇した。この結果再三の反落と悪材料もかかわらず、通貨は上昇しユーロは力強く反発した。今日もEUR/USDは続伸したが、米国株が伸び悩んだことで、投資家はリスク選好の失速を懸念し始めている。米国経済指標の発表がなかったことと、中国の旧正月休みで、市場は概して平静だった。欧州市場で値を伸ばした通貨は、北米の時間帯を通して持ち合いの展開に終始した。EUR/USDと米国株の相関関係は年初の時点で途絶えたが、今日も両者の動きに同一性は見られなかった。企業収益の発表が始まったが、今のところ業績好調と不調が半々の状態である。今週はユーロ圏財務相会合、オバマ大統領の一般教書演説、ダボス世界経済フォーラムと、重要日程が目白押しだが、最も重要なのは米国金融政策に関するFOMCの発表である。1.30を突破したEUR/USDの次のターゲットは1.3115で、ここは50日単純移動平均線とボリンジャーバンドのレジスタンスポイントである。ここを上抜けするか否かの鍵を握るのも、おそらくはFOMCの発表であろう。米国の中央銀行は史上初めて、政策金利の見通しを発表する。もし最初の利上げが2013年度後半に予測されれば、それは2012年度を通しての金融緩和政策の継続を意味し、株式の一層の上昇と米ドルの一層の下落につながる。反対にFEDが2013年の年初またはそれ以前の利上げを予想するようなら、米ドルは上昇し、EUR/USDは最近の上昇分の一部を失うだろう。ユーロは様々な憶測によって反発を続けているが、ユーロ圏のセーフティネット強化に向けて、確固とした措置が採られた訳ではない。通貨と株式の上昇を支えるファンダメンタルズ面での根拠も十分ではない。しかし同時に、悪い材料の相次ぐ出現にもかかわらず反騰を続けるユーロの、底堅さを侮ることは禁物だ。火曜日には米国経済指標の発表が予定されないため、オバマ大統領の一般教書演説が注目を集めることになる。経済が主要フォーカスになることは明らかであるが、一般教書は国民に向けて公約を宣言する場所であり、市場は公約がしばしば破られるものであることを承知している。したがって、大統領の演説が市場に大きな影響を与えることはないだろう。

EUR: ユーロ圏財務相ギリシャの提案受け入れを拒否

為替市場における今日のEUR/USDの動きを見る限り、ギリシャのデフォルト回避に向けた交渉が進展していると考えられるのも無理はない。しかし現実とは異なり、PSI交渉は難航したままである。実際ユーロ圏財務相は、利払い削減を含むギリシャPSIの妥協案受け入れを拒絶し、交渉は振り出しに戻った。当初は23日開催のEU財務相会合前の合意が期待されていた。現時点では30日開催のEU首脳会議前の合意到達を目指すことになるが、2月13日までは何も進展しないだろうとの観測も出始めている。仮にそうなれば、3月20日まで残された時間は多くない。格付会社フィッチによれば、追加救済資金がない場合、ギリシャはこの日デフォルトに陥る。国際金融協会(IIF: 民間債権者の団体)がギリシャ側の提案を精査し、おそらくは独自の提案を行うための時間を必要とすることを考慮すれば、ギリシャが行っているゲームは極めて危険である。自体は正に急迫しつつあり、投資家はユーロ圏が、理が非でもギリシャのデフォルトを回避すると期待する。EUR/USDの今日の動きは、ポジションに関連した売買が通貨市場に及ぼす影響の大きさを物語った。ギリシャにおけるPSI交渉の行き詰まりとフランス経済成長の減速は、本来ソブリン債務危機の一層の混迷と景気後退への懸念を増大させるはずである。しかし投資家は相変わらず楽観的姿勢を崩さず、1.30の大台を超えたEUR/USDは、年初来の高値1.3075に急接近した。EUR/USDのショートポジションが史上最大規模に積み上がった現状、ショートの巻き戻しが続く公算は高い。明日はユーロ圏のサービス業と製造業の景況感指数が発表される。欧州が抱える最大の懸念のひとつはリセッションである。もし1月のPMIが改善を示せば、懸念は緩和されユーロはさらに上昇するだろう。反対にPMIが悪化すれば景気後退懸念は再燃し、EUR/USDは反落を余儀なくされるだろう。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適合している投資商品とは言えません。本レポートの内容は

- 情報提供の目的のみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

弊社及び著者は投資サービス、法律サービス、会計・税制サービスあるいはその他のプロフェッショナル・サービスは提供しておらず、そのような必要が生じた際は適切なプロフェッショナルからサービスの提供を受けてください。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp ©2012 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複製・複製・転載を禁ず。GD08J.006.011212